

今週の話題：

< 78 巻、2003 年、1 号 52 号までの索引 > ( WER 参照 )

< 天然痘研究所の調査 >

WHO より任命された国際生物安全対策の専門家の 2 チームが、天然痘を保持している最大の研究所である、疾病管理予防センター ( CDC ; アトランタ ) とウイルス生物学の国立研究センターである “ VECTOR ” ( SRC VB VECTOR ; Novosibirsk 地域 ロシア連邦 ) で調査を終えた。1980 年に天然痘の撲滅が正式に確認されて以来、世界保健総会で通過した一連の決議事項に従い、これらの施設は WHO が任命した生物安全対策チームによって定期検査を受けている。2002 年 5 月に通過した最新の政策決定では、調査の僕敵が現存するウイルスの在庫の厳し封じ込めと、天然痘ウイルスを扱うための安全な研究環境を確保することを明示した。

CDC と SRC VB VECTOR の前回の調査はそれぞれ 2000 年 2 月と 2002 年 9 月に行われた。その時、それぞれの研究所が安全な作業のための基本的な要件を満たしていたが、天然痘ウイルス使用の操作手順を強化するために多くの提案がなされた。これらの提案の実行は今回の調査の一環として再調査され、全体的に満足のいくものであることが分かった。

流行ニュースの続報：< インフルエンザ >

\* インフルエンザの流行が北半球の国々でさらに増加：

要約 ( 2003 年 12 月 16 日 )

A ( H3N2 ) 型ウイルスに関連したインフルエンザの流行が、ヨーロッパ ( フィンランド、フランス、ノルウェー、ロシア連邦、スイス ) と北アメリカ ( アメリカ合衆国 ) で大幅に増え続けている。しかしポルトガルとスペイン、カナダの一部で減少してきている。英国での早期のインフルエンザ流行の増加は安定してきているが、その傾向は明確でない。その他の多くのヨーロッパの国々 ( デンマーク、イタリア、ウクライナ ) では増加傾向が見られるが、インフルエンザの流行は今のところ低いままである。

現在まで、今期、ほとんどのインフルエンザの流行は A ( H3N2 ) 型ウイルスによるものである。これまで抗原的に特徴付けられたウイルスのうち、ほとんどが A/Fujian/411/2002 様であり、残りは A/Panama/2007/99 様である。アジアではわずかに A/Fujian/411/2002 様ウイルスが検出されている。

国立統計所英国事務所によると、今年の全ての要因による死亡数は過去 5 年間でほぼ平均である。CDC はアメリカ合衆国の肺炎とインフルエンザによる死亡率がこの時期の流行閾値を下回っていると報告している。

A ( H9N2 ) 型ウイルスの 1 症例が 12 月 9 日に香港で確認された。この症例は、11 月の終わりに軽い症状で入院し 2 日で退院した 5 歳の男児であったが、他への感染や広がりもなく単独の症例であると思われる。調査は続いている。これは鳥インフルエンザ A ( H9N2 ) 型が香港においてヒトから分離された 2 例目の症例である。1999 年に発見された最初の症例では、2 人の娘が感染し、インフルエンザ様症状から完治している。A ( H9N2 ) 型ウイルスは、ここ数年この地域の鳥の間で流行している。

更なる情報：<http://www.who.int/csr/disease/influenza/influenzainetwork/en/>

フィンランド ( 12 月 13 日 )<sup>1</sup>：第 50 週目にインフルエンザ流行は増加しつづけ、国内に広範囲に広がり、77 例の A 型が検出された。今のところ、全ての A 型は A/Fujian/411/2002 様と見なされた。

フランス ( 12 月 6 日 )<sup>1</sup>：第 49 週目に A ( H3N2 ) 型による流行が増加し続け、アルザスを除く全ての地方で広がりを見せている。

ノルウェー ( 12 月 6 日 )<sup>1</sup>：広範囲のインフルエンザ流行が第 49 週目に 3 週連続で報告された。インフルエンザ様疾患 ( ILI ) が増加し続けている。前週、最も高い発生率が報告されたノルウェーの西部と中部で、少しずつ減少が見られた。全ての 21 例の A ( H3 ) 型ウイルスが A/Fujian/411/2002 様であると抗原的に特徴付けられた。

ポルトガル ( 12 月 6 日 )<sup>1</sup>：インフルエンザの流行は第 48 週目に減少し始めた。この傾向は第 49 週目も続いたが、流行は依然広範囲である。これまで特徴付けられたウイルスのほとんどが A/Fujian/411/2002 様である。

ロシア連邦 ( 12 月 6 日 )<sup>1</sup>：第 49 週目に主に A ( H3N2 ) 型ウイルスに関連した局所的なインフルエンザ流行が増加し、29 例の A ( H3N2 ) 型が分離された。

スイス ( 12 月 3 日 )<sup>1</sup>：第 49 週目にインフルエンザ流行の増加が続く。16 例の A 型と 9 例の A ( H3N2 ) 型と 1 例の B 型が検出された。これまで抗原的に特徴付けられた全ての A ( H3 ) 型ウイルスは A/Fujian/411/2002 様である。B 型は、aB/Sichuan/379/1999 様が検出された。

アメリカ合衆国 ( 12 月 6 日 )<sup>1</sup>：第 49 週目にインフルエンザ流行は増加し続けている。インフルエンザ様疾患 ( ILI ) の診察率は 5.1% で、国内基準の 2.5% を上回った。広範囲なインフルエンザ流行が 24

の州と地域で報告され、局所的な流行は15の州とニューヨーク市で報告された。標本の中で36.8%がインフルエンザ陽性で、1,394例のA型と15例のB型が確認された。第40週目よりCDCは212例のA(H3N2)型ウイルスを抗原的に特徴づけ、54例(25%)はA/Panama/2007/99様で158例(75%)がA/Fujian/411/2002様である。

その他の報告：オーストリア<sup>1</sup>、チリ<sup>2</sup>、ドイツ<sup>1</sup>、ハンガリー<sup>3</sup>、アイスランド<sup>1</sup>、アイルランド<sup>4</sup>では、インフルエンザ流行は低い。クロアチア<sup>1</sup>、ギリシャ<sup>5</sup>、メキシコ<sup>4</sup>、ポーランド<sup>1</sup>、セルビアとモンテネグロ<sup>6</sup>では、インフルエンザ流行は報告されていない。

参照 <sup>1</sup>NO.50,2003,p.430-432、<sup>2</sup>NO.49,2003,p.424、<sup>3</sup>NO.21,2003,p.188、<sup>4</sup>NO.48,2003,p.415-416、<sup>5</sup>NO.24,2003,p.208、<sup>6</sup>NO.46,2003,p.404

(勝見佐代子、松田宣子、片岡陳正)